

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度 第2回吉川市児童福祉審議会
開 催 日 時	令和5年1月30日(月) 午後6時00分から 午後7時40分まで
開 催 場 所	吉川市役所第304・305会議室
出席委員(者)氏名	佐久間美穂委員、木村ミツ委員、大月浩史委員、荒井一美委員、清水孝二委員、松澤良美委員、吉岡弘美委員、中村麻里委員
欠席委員(者)氏名	
担当課職員職氏名	こども福祉部子育て支援課長 桜井健一 こども福祉部障がい福祉課長 程田浩司 こども福祉部保育幼稚園課長 島村善和 こども福祉部保育幼稚園課課長補佐 柴田守彦 健康長寿部健康増進課係長 稲見絹子 こども福祉部子育て支援課子育て支援係主任 中村雄貴 こども福祉部子育て支援課子育て支援係主事 岡庭侑香
会議次第と会議の公開 又は非公開の別	1 開 会 2 あいさつ 3 議事 (1) 第2期吉川市子ども・子育て支援事業計画の見直し案について (2) 第2期吉川市子ども・子育て支援事業計画に係る進捗状況について 4 その他 5 閉会 ※ すべて公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍 聴 者 の 数	なし
会 議 資 料 の 名 称	資料1 第2期吉川市子ども・子育て支援事業計画の見直し案について 資料2 第2期吉川市子ども・子育て支援事業計画に係る進捗状況について 別紙1 パブリック・コメント概要 別紙2 市町村子ども・子育て支援事業計画変更承認通知書
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会 議 録 確 認 指 定 者	松澤委員、吉岡委員
そ の 他 の 必 要 事 項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)

事務局

資料の確認

1. 開会

2. あいさつ

子育て支援課長あいさつ

3. 議事

議事の前に、事務局から、大澤前委員の後任である木村委員の紹介。

木村委員あいさつ

(1) 第2期吉川市子ども・子育て支援事業計画の見直し案について

【関係資料】

資料1 第2期吉川市子ども・子育て支援事業計画の見直し案について

事務局

(事務局から説明)

会長

(質疑応答)

なし

会長

第2期吉川市子ども・子育て支援事業計画の見直しについては、子ども・子育て支援法第61条に規定する、計画変更に必要な手続きを経たので、案のとおり計画を変更することになる。なお変更後の計画は令和5年3月31日から適用となる。

(2) 第2期吉川市子ども・子育て支援事業計画に係る進捗状況について

【関係資料】

資料2 第2期吉川市子ども・子育て支援事業計画に係る進捗状況について

事務局

(事務局から説明)

	(質疑応答)
会長	No 3 9 子どもの見守り活動の推進について、児童の下校見守り放送において、市内児童の声を録音したものを音源として使用とあるが、いつごろから実施している取組か。
清水委員	詳細は事務局に確認いただくが、市内小学校は2年程前から下校見守り放送の録音依頼が来ている。
中村委員	No 1 1 就学援助事業について、修学旅行費についても対象となる記述がある。子ども達にとって修学旅行は貴重な体験であるが、自己負担となる費用があり、修学旅行をあきらめたという保護者の声を聞くことがある。具体的にはどのような費用が対象となるのか。
事務局	対象経費の詳細については、担当課に確認する。
吉岡委員	ひとり親家庭等への支援の項目には、地域食堂や、おやつゴーランドの事業掲載がないようだが。
事務局	本計画の進捗管理対象とはなっていないが、ひとり親家庭等への支援の事業としては実施している。
大月委員	No 5 放課後子ども教室事業について、学力・体力・非認知能力の向上を念頭に置いたプログラムと記載があるが、実績報告の内容からは、そのプログラムの内容や効果が確認できない。本事業が地域における子育て支援にどのように関わってくるのかについても不明である。報告方法を改めるべきではないか。
事務局	実績の報告方法については今後検討する。
吉岡委員	放課後子ども教室事業は、三輪野江小学校と、旭小学校で実施して

	いる認識だが間違いないか。
事務局	令和3年度については、三輪野江小学校のみで実施した。
大月委員	この事業の目的は何か。
事務局	子どもの居場所を作る目的で、試験的な事業として始まった経緯がある。国の通知においても、地域と連携を図りながら学習支援や、体験活動を実施していくものとなっている。
大月委員	地域との協働が目標なのであれば、地域の自発的な取り組みが生まれる仕組みを作らないと、何も変わらないと思う。
吉岡委員	市の事業ではないが、吉川小学校では、地域の方が学習支援ボランティアを行っている。
清水委員	保護者や地域の方がボランティアとして活動している学校応援団と呼ばれるものである。
大月委員	No8子どもの貧困対策推進事業において、子ども未来応援集会の各回の参加人数は。
事務局	正確な人数は改めて報告するが、各回20名程の参加があった。
大月委員	No26要保護児童対策地域協議会の専門性向上について、専門職の配置と研修受講による効果について説明を。
事務局	要保護児童対策地域協議会の事務局である子育て支援課では、社会福祉主事、児童福祉司資格者を配置している。研修については、埼玉県が主催する要保護児童対策調整機関研修を受講し虐待対応等につい

	<p>て学んでいる。</p>
清水委員	<p>No 3 1 発達障がい児（者）支援事業について、発達支援研修会の内容に、個々の児童にどのように対応していくかについては含まれているか。</p>
事務局	<p>子どもへの見立て方や、関係機関へのつなぎ方等を学ぶ研修となっている。</p>
清水委員	<p>小学校からの発達支援では、遅いと感じる。</p>
事務局	<p>就学前の発達支援に関しては、令和3年度から、民間保育園の協力により、クラス担任、加配担任に対して、児童とのかかわり等に関する研修を開始した。</p>
大月委員	<p>発達支援専門員が幼稚園や保育園に訪問する事業があるが、担当する方の専門外の分野については見てもらえない。また、子ども単体でしか見ておらず、集団のなかでどのように子どもが変わるのか、周囲がどのように対応すべきかといった視点がない。</p>
清水委員	<p>インクルーシブ教育の実現に向け、日々教職員は児童の対応に苦慮している。保幼小の連携を強化することは子どもの発達に関しても非常に重要なことである。対応する教職員にとっても重要な情報である。</p>
大月委員	<p>発達支援専門員の訪問については、インクルーシブな視点を踏まえて現場職員に、助言いただきたい。</p>
荒井委員	<p>障がい支援サービスは、利用希望があっても、利用開始までに時間を要することも課題であると感じる。低年齢のうちから療育を受けることの有用性は感じるが、療育を受ける機会が少ないことも感じてい</p>

	る。
大月委員	行政で実施している乳幼児健診の際に、発達が気になる子の保護者への関わり方はどうか。
事務局	乳幼児健診時に、発達の気になる児童の保護者には、必ず声掛けをしている。また、児童の発達経過を確認していく際も、担当者を付けており、保護者が相談できる体制も整えている。早急に療育の必要性があれば、必要な機関への早急なつなぎも行っているところである。
大月委員	No 3 4 障がい児保育事業について、公立保育所の障がい児入所者数のみ実績として記載されているが、民間保育園においても障がい児を受け入れている。
事務局	計画策定時の目標設定に沿った記載になっているものと思われる。実績の記載方法については今後検討する。
木村委員	過去緊急事態宣言下において臨時休校となった際、弁当を配布するボランティア活動を行った。子どもの中には、朝ご飯を食べていない、親は寝ていると話す子がいた。休校の際にはそのような子どもたちへの配慮がなされているのか。
事務局	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休校の際は、緊急の措置として行われたため、そのような児童の把握や対応まで行えなかったというのが実情である。
大月委員	行政が全て対応することは不可能であり、限界がある。子どもの第一義的な養育義務は保護者にある。保護者の教育と、気になる児童の行政への情報提供が重要なのではないかと。

<p>吉岡委員</p> <p>事務局</p> <p>松澤委員</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>地域食堂の利用者は市で把握しているのか。</p> <p>把握は行っていないが、必要に応じて地域食堂と連携を図っている。</p> <p>No 2 4 児童虐待防止対策事業について、暴力や暴言を使わずに子どもを育てるスキルを学ぶ講座の実施とあるが、非常に良い講座である。共働き世帯が多いなか、より多くの保護者が学べるような方法は考えているか。</p> <p>現在対面での講座実施となっている。今後、より多くの方が参加できるような方法について検討していく。</p> <p>4. その他</p> <p>児童福祉審議会の今後の予定について、今年度の開催の予定はなく、来年度に3回程度の開催を予定している。令和5年7月頃に1回目を予定しており、以降については現在のところ未定となっている。</p> <p>現委員の皆様の任期については令和5年10月20日となっているため、来年度は、委員の改選が予定されている。</p> <p>5. 閉会</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和5年2月28日</p> <p>署名委員 松澤良美 自署 署名委員 吉岡弘美 自署</p>	